

平成24年6月25日

ガイガー東村山  
子どもの未来を考える ゆるやかネット 様

東村山市長 渡部 尚

日頃より、市内放射線測定等ご協力をいただき感謝申し上げます。また、昨年の福島第一原発の事故以降、未来ある子供たちを放射能から守り保護者の不安を和らげるため様々な活動をされていることに対し敬意を表します。

さて、遅くなりましたが、6月12日面会時のご提案・ご要望につきまして下記のとおり回答させていただきます。

いただきましたご提案・ご要望にはできるだけお答えしたいとは考えておりますが、今すぐ対応ができないものもあり大変申し訳ありません。今後もこの放射能問題につきましては、子ども達や保護者の皆さまにより安心していただけるよう出来得る対策を講じてまいりますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。

## 記

### 1 【いきいきプラザにできる食材測定室について】

- ・持ち込み測定もできるように是非協力したい。
- ・協議会を設置して欲しい。

⇒消費者庁から測定器（検出限界10ベクレル/kg）の当市への貸与が決定されました。納期は6月末から9月末の間に全国各自治体へ順次納品されることで、当市への納期は現在のところ未定ですが、測定器納品後、まずは毎週1回ほどのペースで公立小中学校・保育園の給食食材について給食を提供する前に検査したいと考えています。

その他の市民持ち込み食材等の検査については、現状の職員体制では困難なため、是非ガイガー東村山の皆さんのお力をお借したいと思っております。具体的な方法等の打合せについて後日連絡させていただきます。

### 2 【各学校の移動教室について】

- ・東村山市の放射線量基準内で移動教室が実施できるようにして欲しい。
- ・市長から校長会を通じ移動教室等の行先を検討し直すよう指導して欲しい。

- ・ホテルでの食材についても、測定後の提供とできないか。

⇒ご要望を踏まえ教育委員会と協議します。なお、移動教室先の空間放射線量はそれぞれ測定しており、現状では問題となる数値は計測されていないとの報告は受けています。

### 3【学校プールについて】

- ・清掃、ヤゴ取りイベント等考慮して欲しい。
- ・既にプール開きしているが、開始前に測定し公表してほしかった。
- ・プールサイドの土を測定して欲しい。

⇒プール開始前の清掃については全校業者委託により実施いたしました。また、ヤゴ取りイベントを実施した4校についてはプール内の空間線量を測定し安全性を確認後実施いたしました。

プールの水質検査については、プールの水そのものは水道水ですので安全と判断しています。しかしながら、梅雨を迎え降雨による影響が心配されますことから各校7月10日前後での検査を予定したところです。

また、土壌測定については、測定器を市で保有していないこともあり、現在他の公共施設も含め実施しておりません。これまで同様、周辺空間線量の測定により安全性の判断をしていきたいと考えています。

### 4【学校や保育園・幼稚園の対応について】

- ・学校によって対応がばらばらな部分があるので、情報共有して同じ対応にして欲しい。

例) 牛乳、水筒持参、椎茸、プール掃除など

- ・東村山市私立幼稚園連絡協議会に対して土壌測定等呼びかけて欲しい。

⇒放射能の問題について、各校各園によって対応がまちまちとなり保護者の方の混乱を招かぬよう連携を図ってまいります。

給食時の水筒持参等については、市では安全な食材を提供していると認識しており、保護者の皆様に食材の安全性について不安を煽るようなことがないよう配慮しているところです。

また、私立幼稚園の土壌測定等については、各園それぞれの方針もあることから市からの積極的な呼びかけは難しさもありますが、今回のご要望を連絡協議会などでお伝えします。

### 5【福島の子どもたち保養プロジェクトについて】

- ・後援など、是非協力をお願いしたい。

⇒市として出来ることがあれば協力させていただきます。

## 6【市の放射能対策について】

- ・市の対策についてHPだけでなく、市報でもコーナーを作って毎回情報提供して欲しい。
- ・回田小で高濃度の汚染が見つかった「藍藻」など、バクテリアスポットがあるので自治会や学校行事での落葉や側溝掃除の時など、市から注意喚起して欲しい。

⇒市報での情報提供については、これまでも特集記事や市議会での市長所信表明事項記事などで市民の皆様へお知らせしてきました。コーナーをを作っての毎回掲載については、紙面スペースの関係などもありますことから可能かどうか検討させていただきます。

「藍藻」の関係は、自治会清掃へのボランティア袋提供時や学校での清掃活動時に注意喚起するよう努めてまいります。

## 7【女川町の廃棄物受け入れについて】

- ・市長会での決定の際異論はなかったか。
- ・担当が資源循環部では柳泉園に対し要望しづらいのではないか。
- ・環境や農産物の安全性の視点から考えられないでしょうか。
- ・例え汚染がこの地域と同程度であっても絶対量をわざわざ増やす必要はない。今は福島からの降下物はほとんどない状態なのに焼却することでさらなる対策が必要になってくるのではないのでしょうか。
- ・手続き上は住民意見を取り入れるものはありませんが、今後改善できないのでしょうか。
- ・私たちのごみの秋水園での焼却やエコセメントは大丈夫なのか心配です。

⇒ご案内のとおり、女川町廃棄物の受け入れについては、現地の状況を鑑みただ中で安全性の確認ができた瓦礫について受け入れると東京都が決定し、市長会としても了承したものです。受け入れについての住民説明会については、これまで東京都が主体となり施設所在自治体において行われてきましたが、柳泉園隣接の当市市民の皆様への不安は当然理解できるものであり、当市市民の皆様への説明会についても開催できないか東京都へ引続き要望していきたいと考えています。

エコセメントについては、エコセメント化施設の下水道放流水から厚労省が新たに示した「一般食品の基準値」を超える放射性セシウムが検出されたのは承知しています。下水道放流水としては直ちに問題となる数値とは考えておりませんが、今後の動向を注視してまいります。

## 8 【ホットスポットなどから除染汚泥などの保管方法について】

- ・市としての対策はどうしているか。

⇒除染汚泥については、出来るだけ移動を避ける意味もあり、公共施設で発生した除染汚泥については土嚢袋と耐久性が高いビニール袋で二重梱包し、その施設内に穴を掘り一時埋設保管することとしています。民有地で発生した除染汚泥についても、その民有地内で同様の処理方法をとるようお願いしています。